

2019

地域連携事業成果報告書

COCプラス推進本部事業

- 文部科学省COC+事業とくしま元気印
イノベーション人材育成プログラム

地域連携の取組

- 総合科学部
- 医学部
- 歯学部
- 薬学部
- 理工学部
- 生物資源産業学部
- 病院
- 人と地域共創センター
- 情報センター
- 国際センター
- 研究支援・産官学連携センター
- 産業院
- 環境防災研究センター
- 先端酵素学研究所
- 附属図書館
- 地方大学・地域産業創生事業室
- ポストLEDフォトンクス研究所

文部科学省 COC+事業とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム

事業のポイント

- 本学が申請校となり、平成27年度に採択された地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COCプラス)「とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム」を推進している。
- 本学における教育カリキュラムの改革、及び関連団体との連携事業を通して、県内の高等教育機関における県内就職率を5年間で10%増加させることを目指す。

事業の概要

1. 事業の目的

日本が直面する最重要課題は地方の人口減少問題の克服であり、そのためには地方に雇用を創出して地方への人の流れを作り、「東京一極集中」の是正に取り組む必要がある。地方国立大学は、地方における知の拠点として産学官の力を結集した地域の産業振興・雇用創出や、地域の高等教育機関との連携による地域が求める人材育成の中核としての使命を果たさなければならない(平成26年11月「まち・ひと・しごと創生法」、同12月「長期ビジョン」「総合戦略」閣議決定)。

そこで、平成27年度に採択された地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COCプラス)「とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム」を推進することにより、地方創生の中心を担う人材の育成に取り組むとともに、学生の県内就職率の増加を図る。

2. 事業の取組状況

【本学における教育カリキュラムの改革】

徳島県内に就職して地域の産業振興と課題解決に積極的に参画する「元気印イノベーション人材」を育成するために、必要となる能力と確信を付与する教育カリキュラム「とくしま元気印イノベーター教育プログラム」の開発・実施を進めている。

具体的には、地域と主体的に関わるための教育「ボランティア・パスポート」、入学者が履修する「地域理解のための教育科目」、専門分野の知識・理解を深める「専門教育プログラム」、職業人意識とコミュニケーション力を育成する「寺子屋式インターンシップ」等のプログラムを開発し、平成28年度以降入学の学生が履修できる体制を整えた。所定の単位を取得したプログラム修了生(希望者)には学長名の修了証を授与することとしている。

事業代表者・連絡先

COCプラス推進本部

〒770-8502 徳島市南常三島町1-1 研究・社会連携部地域創生課内

tel: 088-656-9888 fax: 088-656-9880

e-mail: coc-plus@ml.tokushima-u.ac.jp

① ボランティア・パスポート

平成28年度から「ボランティア・パスポート入門」を開講。主体的に地域と関わり、地域の課題に挑戦する仕組みとして、学生にボランティア・パスポートを配布し、ボランティア活動の記録を残す。40時間の活動記録を集めることが単位取得の要件であるが、単位取得後は、さらに40時間従事する毎にパスポートの色が変化(写真1)し、段階的に学長や徳島県知事の表彰が受けられる。本年度は83名の学生が履修した。



(写真1)パスポートの3段階変化

② 地域理解のための教育科目

地域の文化や地域への理解・愛着を深めるための地域志向科目を設定し、入学者全員が履修している。前掲の「ボランティア・パスポート入門」をはじめとする地域科学教育科目群(教養教育)25科目のほか、当該科目群以外の教養教育科目から9科目、一部学部の専門教育科目から3科目を選定し、合計37科目を地域志向科目として開講した。

③ 専門教育プログラム

徳島県で新たな雇用創出と学生の就職率の向上が期待される4つの分野(次世代技術関連、地域医療・福祉関連、6次産業化関連、地域づくり・観光・ICT関連)を設定。全ての学部において、各学部のカリキュラムの中から、対

応する分野に必要な専門分野の知識・理解に関わる科目をパッケージとして編成し、開講した。

④ 寺子屋式インターンシップ

昨年度に引き続き、事前学習からインターンシップ、事後の振り返りまで「課題・レポート・ディスカッション」を繰り返す「寺子屋式指導法」によるインターンシップ「実践力養成型インターンシップI・II」を教養教育科目として開講した。本年度は、学内教職員10名がドン(学内メンター)として参加するとともに、35名の学生が14の企業・団体に課題に取り組んだ(写真2)。



(写真2)インターンシップ中間報告会

また、医学部、歯学部、薬学部の一部の学科における学外実習科目を、地域において実践的に専門の学びに取り組む科目として位置づけ、寺子屋式指導法により実施した。

【関連団体との連携事業】

① 事業参加校による共同授業の実施

8月22日、23日、26日、27日の4日間に渡って、事業に参加する県内6高等教育機関(参加校)による共同授業「徳島の魅力、徳島で働く」を開講した。メイン会場で行われている講義の映像はサテライト会場(県南、県西2会場)にも配信し、現地で大学生スタッフが高校生向けのワークショップを運営した。4日間で、参加校学生のべ779名、県内高校生(一般を含む)のべ47名が参加した(写真3)。

② 学生、保護者向け企業ガイダンスの実施

県内企業への就職に関し、学生と保護者の理解を広げる機会とするため、県内企業等18団体によるガイダンス「徳島の魅力、徳島で働く」を12月22日に実施し、76名が参加した(写真4)。



(写真3)共同授業「徳島の魅力、徳島で働く」



(写真4)学生、保護者向け企業ガイダンス

3. 事業実施による成果と今後の展開

【本学における教育カリキュラムの改革】

事業最終年度となる本年度は、これまでの各種取組の実施結果を踏まえたうえで、さらなる内容の改善・充実を図った。本学教職員の理解と協力の下、インターンシップの推進や企業ガイダンスをはじめとする各種イベントの開催・実施など、順調に進んでいる。

今後は、各種プログラムの教育効果を検証しつつ、より効果的な教育手法の開発を進めると同時に、教員間で情報共有し、ブラッシュアップを重ね、それら手法の学内定着化を図ることとしている。

【関連団体との連携事業】

共同授業、企業ガイダンス、FD地域人材育成フェスタ等の事業を継続実施することにより、事業協働機関において、取組の成果・効果及び課題を共有することができた。事業期間終了後も本取組を発展的に継続実施するため、運営体制の整備に向け、現52協力機関で「コンソーシアムとくしま」を設立し、事業協働地域内の連携をさらに強化することとしている。